

# Jネット勉強会（千葉県いすみ市）

千葉県大網白里町 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

親鸞聖人は浄土真宗（一向宗）の開祖であることを知ったのは、勉強会の三か月ほど前だった。

があることを知ったのは、勉強会の三か月ほど前だった。

この「伝絵」は、元は常陸の国（茨城県）毘沙門山照願寺に伝来したものであるが、元禄年間に寺が現在地に移転した際、

持つて来たものである。

「伝絵」は四巻から成り、幅四十一四、

長さは十二・五五印ある。



## 波の伊八作の欄間彫刻

天台宗行元寺（いすみ市荻原二二三六）

この寺には、江戸時代後期に活躍した波の伊八作「波に宝珠」の欄間彫刻がある。伊八は当時、瓢箪に入れた酒を腰にぶら下げ、行元寺住職の馬に乗つて毎日のように海に入つて波を観察していたと

言われています。この波の碎け方とい



第三巻には「越後流罪、稻田興法、山伏清度」が描かれ、それぞれに説明文も書かれているが、字は難解である。

しかし、どの巻も色彩が美しく（特に

緑と赤、人物、動作が生き生きと描かれているのが印象的だった。

## 絵巻物親鸞聖人伝絵

ものである。

当日十時十分、薄曇りの中、茂原駅に集合したのは六人。会員の車三台に分乗

し、出発した。当日の走行距離は、茂原駅を発してから茂原駅へ着くまで約八十キロメートル。

取つて」見せたのは、伊八が世界で初めてだつたのでは……？

「伝絵」原本は、昭和四十一—四十二年に修理が施された後、東京国立博物館で

保管管理されており、この寺にあるものは、修理後の原本を、精巧な印刷技術によつて複製印行したもので「紙本着色親

鸞聖人伝絵」と言われている。

真宗では、絵巻形式のものを「伝絵」、

正三年三月國宝に指定され、法規改正により昭和二十五年も前に彫られたものである。

より昭和二十五年八月二十九日国指定重

掛幅形式のものを「絵伝」と言うとのこ

とであり、板倉区の「ゑしんの里記念館」内にあるのは、掛幅形式の「絵伝」である。

伊八作の牛若丸



五 飯縄いづな寺(いすみ市岬町和泉一九三)

寺々にも欄間等の彫刻がある。  
しかし、「伊八」を知る人は、ほとんど居なかつたのであるが、昭和五十年代に元鴨川市長 長谷川治一氏が努力・研鑽され、伊八の本を出されてから一般にも

徐々に知られるようになった。  
以来約三千年、平成十九年二~四月と  
七~九月まで、今回廻った二寺を組み込  
んだJRびゅうばす「波の伊八号で巡る  
旅」が運行されるまでになった。

この寺にも、波の伊八作「大天狗から免許をもらう牛若丸」と両脇に「波に飛龍」の欄間彫刻がある。

いずれも伊八が最も脂の乗り切った時の作で、高さ一匁、幅四匁、厚さ〇・六匁のケヤキの一枚板を彫りぬいたもので、「大天狗から免許をもらう牛若丸」は、この寺の看板でもあり特に有名である。

また「波に飛龍」では、波頭が巻き込まれるように波の裏側も実に見事に彫りこまれている。この寺へは、今まで何回となく見に行つていたが、照明をつけて見たのは今回が初めてである。こんなに圧倒的な質感があるとは気付かなかつた。

今回訪れた三寺は、千葉県の田舎とともに  
いうべき所に在るが、房総が豊かな歴史・  
風土に恵まれていたためか文化財にも恵  
まれている。

初代 武志伊八郎（一七五一—一八二四、通称 波の伊八）は、戸戸時代後期に活躍した宮彫師である。その彫り、特に波の造形のあまりの見事さに「関東へ行つたら、波だけは彫るな」と関西の彫師たちに言わしめたという。波だけでなく、龍などの彫刻もまた見事であり、鴨川市の



☆天台宗元行寺へは、JR外房線「上総一ノ宮」駅から車で約四十分。また、いすみ鉄道「国吉」駅から車で約七分。  
☆淨土真宗照願寺へは、JR外房線「大原」駅から徒歩約二十分。

☆淨土真宗照顧寺へは、JR外房線「大原」駅から徒歩約二十分。☆飯縄いづな寺へは、JR外房線「東」駅から車で約五分。